

# 和の光

宝塚市立西谷中学校



## 式辞

校庭の木々の芽が膨らみ始め、生命が躍動する春の到来を感じる季節となりました。今日のよき日に、宝塚市立西谷中学校第79回卒業証書授与式を挙行できますことを大変嬉しく思います。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さん一人ひとりに卒業証書を授与いたしました。皆さんは小・中学校9年間の義務教育をここにいる仲間と過ごし、楽しさや喜びを共有し、時には困難なことや投げ出したくなることも力を合わせて乗り越えてきました。その証が「卒業証書」です。今一度、手にした卒業証書の重みを感じて欲しいです。

さて、皆さんにとって、西谷中学校での3年間はどのような学校生活だったでしょうか。人生の中でも、中学校で過ごす3年間は心と身体が飛躍的に成長するときであり、多くのことを吸収できる大切な時期だと言われています。

私は、物事を常に前向きにとらえて前進する皆さんと過ごす中でたくさんの思い出ができました。ここで、少し振り返ってみたいと思います。

5月、修学旅行は大変思い出深いものになりました。15名の仲間と新幹線に乗って東京へ行けること、中学校生活で最後となる宿泊行事でもあり、皆さんの心は何日も前からワクワクしていたことと思います。

初日は、国会議事堂を見学しました。立派な議場に驚くとともに、ここで様々な議案や法案が審議されていることを自分たちに目で見て、その役割の大切さを実感することができました。東京スカイツリーでは、高速のエレベータに驚き、展望回廊で絶景を眺めながら空中散歩を楽しみました。

2日目、皆が心待ちにしていた「東京ディズニーシー」での班行動です。朝から晩まで仲間と一緒に時間を忘れるほどアトラクションや買い物、食事を楽しみました。私は皆さんと一緒にタワーオブテラーに乗れたことが思い出に残っています。

3日目、平和祈念展示資料館の見学では、写真や遺品の展示を見ることで、戦争の悲惨さや平和の尊さについて改めて学ぶことができました。そして、東京散策では、班ごとに行先を決めて、仲間と協力しながら東京の街並みを散策しました。地下鉄やJRなどの乗り換え、迷路のような地下街でもスマートフォンでアプリを駆使して歩く姿はとても遅しく感じました。私は修学旅行を通して、皆さんの絆の深さを感じ、これからの学校生活がとても楽しみになりました。

6月、西谷ふれあい運動会では、最高学年として、年下の園児や小学生をリードし、全員の力を合わせて躍動感に満ちた演技をたくさん披露してくれました。市内で一番小さな学校ですが、どの学校にも負けることがない素晴らしい運動会になりました。

10月、文化発表会では、自分たちから「書道パフォーマンスを是非やらせて欲しい」という声があがりました。そのことを知った私はとても嬉しかったです。ダイスの曲「ノンフィクションズ」に合わせて、15人が心一つにして、感動的なパフォーマンスを披露しました。

皆さんの姿を見た後輩には、「人生の主人公は自分自身であること」、「逆転劇や予期せぬ苦しい展開こそが現実の魅力であること」、「失敗を恐れないこと」、「人生は家族や友人などたくさんの人々の支えで成り立っていること」などが伝わったと思います。また、書道パフォーマンスが西谷中の良き伝統として受け継がれていくことと思います。

12月、いよいよ中学校卒業後の進路を決める時期になりました。どの学校へ進学するのかを決める中で、自分の思いと現実の違いから、悩んだり、時には落ち込んだりした時もあったと思います。それでも皆さんの周りには志を同じにする仲間、担任の先生をはじめとするたくさんの方、そして何よりも皆さんを温かく見守り支え続けてくれた家族がいたことを忘れないでください。

さて、卒業生の皆さんに、西谷中学校長として、最後のお話をします。皆さんは、ノーベル化学賞を受賞した京都大学の北川進先生を知っていますか。北川先生は、「金属有機構造体」という不思議な物質を開発し、世界を変えました。それは、目に見えないほど小さな、無数の「穴」が開いた物質です。開発当初、周囲の目は冷ややかなものでした。「何もない『穴』ばかりの研究をして、一体何の役に立つのか」「中身のないスカスカの空間に価値などない」と。しかし、北川先生は諦めませんでした。その「何もない空間」こそが、二酸化炭素を捕まえ、地球を守り、新しいエネルギーを蓄える鍵になると信じ抜いたのです。

ここには、二千年以上前の中国の哲学者、荘子が説いた「無用の用」という教えが息づいています。私たちはつい、目に見える成果や、すぐに役立つ知識、ぎっしりと中身の詰まった効率の良さばかりに価値を置いてしまいます。しかし、荘子は教えました。器は「空っぽの部分」があるからこそ、物を入れることができる。部屋は「何もない空間」があるからこそ、人が住むことができる。つまり、一見「無駄（無用）」に見えるものこそが、実は最も大切な「役割（用）」を果たしているのだ、と。

皆さんのこれまでの三年間を振り返ってみてください。受験に関係のない読書にふけた時間。部活動で、ただがむしゃらにボールを追いかけ、結局試合には負けてしまったあの放課後。友人との他愛もないお喋りや、答えの出ない悩みで眠れなかった夜。それらは、効率を重視する大人から見れば「無駄」に見えるかもしれませんが、しかし、それこそが、皆さんの人間としての「器」を作るための大切な「穴」であり、「余白」なのです。その余白があるからこそ、皆さんは将来、多様な考えを受け入れ、新しいアイデアを生み出し、他人の痛みを理解する優しさを蓄えることができるのです。しかし、その豊かな余白を活かすためには、皆さんに二つのことを約束してほしいのです。

一つ目は、「自らの殻を破る勇気」を持つことです。「自分はこれくらいだ」「自分には才能がない」と決めつけることは、自分の可能性を固い殻に閉じ込めてしまうことです。北川先生が「穴なんて無駄だ」という世間の常識を打ち破ったように、皆さんも自分自身が作り上げた限界という殻を、内側から突き破ってください。殻を破る瞬間は、痛みも伴うでしょう。勇気も必要です。しかし、その先にしか、皆さんが本当に輝ける新しい世界はありません。

二つ目は、「コツコツと努力を積み重ねる」ことです。「無用の用」とは、決して「何もしてない」という意味ではありません。北川先生が、目に見えない穴の可能性を証明するために、何千回、何万回と実験を繰り返したように、自分の信じた道に対して注ぐ熱量が必要です。努力は、すぐに結果として現れるとは限りません。大地に根を伸ばし続ける植物のように、目に見えない時間が長く続くでしょう。しかし、その「報われないように見える時間」こそが、皆さんの根を強くし、嵐が来ても倒れない土台を作ります。効率を求めすぎず、近道をしようとせず、今の自分にできるベストを尽くし続けること。その積み重ねだけが、いつか皆さんの中に空いた「穴」を、光り輝く宝石へと変えていくのです。

これから皆さんが歩む道は、予測困難な変化の激しい時代です。正解のない問いに立ちすくむこともあるでしょう。そんな時は、今日ここで誓った「自分の可能性を信じる心」と、共に学んだ仲間たちの笑顔を思い出してください。

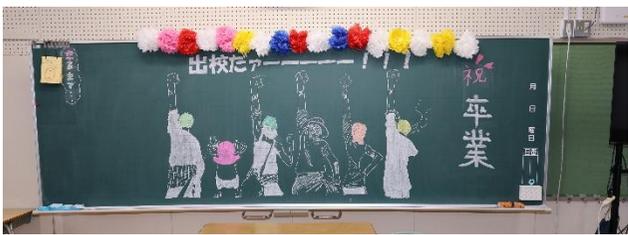
次に、保護者の皆様一言、お祝いを申し上げます。お子様のご卒業、誠にありがとうございます。今から十五年前、子どもたちは、ご両親から一つの命(いのち)を授けられました。その命は、今、頼もしく燦然(さんぜん)と輝きをはなとうとしています。お子様の晴れ姿に感慨もひとしおのことと思います。本日を人生の節目として、今後とも立派に自立され、個性豊かな人間として成長されますよう、心からお祈り申し上げます。

また、西谷中学校の教職員一丸となって、子どもたちの成長を見守りつつ、精一杯努力したつもりではありますが、至らない点もあったと思います。それにも関わらず、私たちにお寄せくださいましたご理解とご協力に対して厚く御礼申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。皆さんと過ごしたこの3年間は、私の人生においてかけがえのないものであり、皆さんと出会えたことを誇りに思います。ふるさと西谷で、この素敵な仲間たちと過ごした喜びを胸に刻んで、これからの人生を歩んでください。

名残はつきませんが、以上を、巣立っていく皆さんへの言葉といたします。卒業おめでとう。しっかり前を向いて、胸を張り、明日に向かって進んでください。

令和8年(2026年)3月16日  
宝塚市立西谷中学校長  
筒井 啓介



書道パフォーマンス作品



巣立ちのこぼ



感動的な卒業式になりました



高橋先生から3年間の思い出と激励の言葉をいただきました



高橋先生から卒業証書を受け取ります



卒業記念の撮影です



卒業生が巣立っていきます



笑顔で巣立っていきます



こども園・小学校・中学校の皆で見送ります